

- ◆第32回FDセミナー開催報告…①
- ◆第32回FDセミナーに参加して…①
- ◆第31回FDセミナー開催報告…②
- ◆「初志貫徹」——「編集後記」改題…②

第32回FDセミナー開催報告

「授業デザインの基礎 ～理論に基づいた授業を目指す～」と題し、「東京理科大学 教育DX推進センター 第32回FDセミナー」を開催しました。

<概要>

テーマ：授業デザインの基礎
～理論に基づいた授業を目指す～

日時：2022年7月22日(金)

午前の部：10:00～12:30 神楽坂キャンパス8号館852教室

午後の部：15:00～17:30 野田キャンパス講義棟K402教室

開催方法：対面

内容：開会挨拶 井手本 康 副学長
内容説明 渡辺 雄貴 教育支援機構
教職教育センター教授
(教育DX推進センター
TL部門長)

ディスカッション

閉会挨拶 滝本 宗宏 教育DX推進センター長

参加者：104人(新任教員102人、その他教員2名)

<当日実施したアンケート結果(抜粋)>

(新任教員向けのセミナー内容をより良いものとするために改善すべき点や、取り上げてほしいテーマ等)

- ・LETUSの具体的な使い方(実際の工夫など)を教えてください。
- ・授業をまだ持っていない人や、実習しか行っていない人向けにも応用できる内容だと良かった。

(本セミナーを受講して良かった点)

- ・授業の構成や理解度・到達度を評価することを理論的に学べたので良かった。
- ・講師の方の説明だけでなく、グループワークを通じて他学科の科目の進め方や方針などを直接聞ける点は良かった。
- ・シラバスの書き方の理解が深まった、アクティブ・ラーニングの意義がより明確になった。

(本セミナーでの改善すべき点)

- ・授業を受け持った経験が少ないグループだったので、新任教員だけでなく、経験のある先生ともディスカッションして意見を伺えたら良かった。
- ・実験系科目など曖昧な表現になりがちなシラバスの改善例・添削例などが知れるとより役立つものになると感じた。
- ・スライドのページによって文字サイズがとても小さく、印刷された手元資料も同じく小さすぎて見えない箇所が多かった。事前にスライドデータをBoxなどで共有して各自のPCやタブレットで閲覧できるようにしてもらえたら、iPadでピンチアップしながら見ることができた。

(FDセミナーへの意見・要望等)

- ・効果的なハイフレックス授業を行うために、ハイフレックス形式でのセミナーを企画して欲しい。
- ・神楽坂キャンパスに行くのは初めてで道に迷ってしまった。地図のURL等も案内していただけるとありがたかった。

※当日の動画・資料はLETUS(学内者限定)から閲覧できます。 <https://letus.ed.tus.ac.jp/course/view.php?id=11176>
(視聴にはログインID、パスワードが必要です)



第32回FDセミナーに参加して

FDセミナーに参加しての感想

今回のFDセミナーに参加し、どのような授業設計をすべきか学びました。インストラクショナルデザインとは、教育活動の効果、効率、魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、または、それらを活用して学習支援環境を実現するプロセスのことを指します。本セミナーに出席し、このプロセスにおいて、私たちが教員として、授業を通してすべきことは、学生た

ちの学習率をいかに上げるかということだと学びました。そのために、授業の入口・出口を明確にし、「～を用いて」、「～できる」等の文言を用いて学習目標を行動目標として示し、事前に学習目標の設定をするよう心がけるようになりました。このような機会を与えてくださったことに感謝しております。

理学部第一部数学科
助教

小境 雄太

第31回FDセミナー開催報告

「試験以外の成績評価方法(多様な評価、形成的評価)を再考する

～2022年度授業に向けて～」と題し、「東京理科大学教育開発センター 第31回FDセミナー」を開催しました。

<概要>

テーマ: 試験以外の成績評価方法(多様な評価、形成的評価)を再考する～2022年度授業に向けて～

日時: 2022年3月11日(金) 10:00～11:45

開催方法: 遠隔(Zoom)によるオンライン

内容: 開会挨拶 井手本 康 副学長

2022年度授業の実施方針について

井手本 康 教育支援機構長

グループワーク進行、テーマ説明、話題提供

渡辺 雄貴 教育支援機構

教職教育センター教授

(教育評価小委員会委員長)

閉会挨拶 井手本 康 教育開発センター長

参加者: 104人(教員94人、博士課程学生3名、事務職員7人)

等)の部分を含めて知ることができた。学生による相互評価(ピアレビュー)の方法についても、今後、工夫していきたい。授業の到達目標等に照らしつつ、多様な評価方法を取り入れたい。

皆さんの状況が共有できたので、孤立感が解消され、新たな試みの意欲が湧いた。

・フォーラムの活用。相互評価という授業改善のヒントを得られた。

(本セミナーでの改善すべき点)

・ワークシートをその場で書かせる試みは良かったが、時間が足りなかった。ディスカッションの後に、休憩時間(記入時間)などを設けるなどしないと無言の時間が続くのも対応しづらく感じた。

・話題提供を充実させてほしい。成功例、失敗例、など色々知りたい。

・他学科の根本的立場の違いに立脚する要素は参考になる(今回で言えば、薬学部は講義内容に関する外部審査など、拘束が厳しいなど)。そういった個別の事情を反映した話があると、知見が広がる。

(FDセミナーへの意見・要望等)

・事前の資料配布で心づもりができて良かった。また、1回目のグループワークは比較的自由に意見交換ができて、よい導入だった。

・「書記が報告」から「全員が(少しずつ)報告」になったのは良かった。

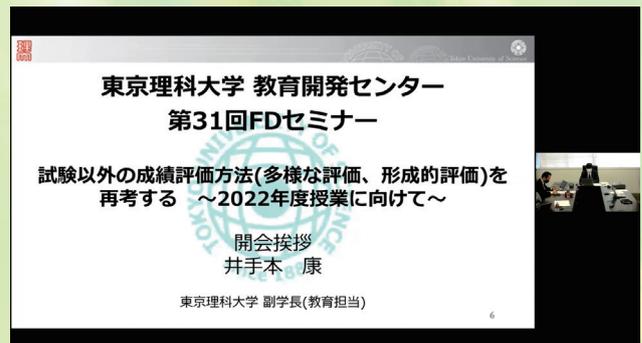
・グループワークも専門の違う教員間での議論だったため、学びが多くあった。

<当日実施したアンケート結果(抜粋)>

(本セミナーを受講して良かった点)

・多様な評価方法をどのように組み合わせるか、「多様な観点からの評価(多面的な評価)」をどのように実施するか、履修者数が多い場合にグループワークをどのように評価するかに関して、具体的な評価方法・基準や、各評価方法に付随するリスク管理(公平性の担保

※当日の動画・資料はLETUS(学内者限定)から閲覧できます。 <https://letus.ed.tus.ac.jp/course/view.php?id=11176>
(視聴にはログインID、パスワードが必要です)



「初志貫徹」——「編集後記」改題

教養教育研究院
野田キャンパス教養部
教授

今村 武

編輯子としては第68号の編集後記で筆を置いたはずが、「FD通信」最終号の報に接し、罷り越すこととなった。最終グループの最後尾を走ると形容された当時の理科大FDを一気に加速したいとの強い思いから、当時の教育委員会委員長・鈴木公先生の尽力で「FD通信」が創刊されたのは16年前の2006年11月のこと。

最終号に至る月日を回想していると、例年2年生と一緒にグリム童話集を読み進める授業が思い浮かんだ。「ヘンゼルとグレーテル」は定番だが、気になる箇所がある。食べる物がなく、いよいよもうだめだとなった時、継母はヘンゼルとグレーテルを森の奥深くに置いてくるよう樵夫に持ちかける。妻に説き伏せられ、心ならずもふたりの子を森に置いてくる。しかし、ヘンゼルの機転で光る小石をたよりに、翌朝グレーテルと共に帰宅する。再び飢饉がやってきて、再度ふたりの子供を森のもっと奥深

くに連れて行けと夫を説得する継母は「一度Aと言った者は、Bと言わなければならないのよ」との台詞を口にする。そして父親は重い心で、ヘンゼルとグレーテルを森の未踏の奥深くに連れて行く。

この妙に説得的な継母の台詞が、柔和な夫に子捨てを決意させるのだが、少々大袈裟な物言いをお許しただけならば、編輯子は、良きにつけ悪きにつけ徹底性を追求するゲルマン精神を感じるのである……しかしここは令和の日本、うんと嘸み砕いて解釈し、初志貫徹という表現が相応しいだろう。

教育委員会の答申から教育開発センターが設立され、コロナ禍の中、教育DX推進センターに組織変更された。変化の時こそ、初志貫徹が思い起こされる。すでに一歩踏み出した。歩みを止めるわけにはゆくまい。(今)

15年以上にわたり本学のFD活動を発信し続けてきたFD通信も、第70号の発行を以ってその役割を終えることとなりました。今後は教育DX推進センターホームページにその機能を移し、情報を発信していきます。みなさま、長い間、ありがとうございました。
(教育DX推進センター 一同)



[お問合せ先]

東京理科大学 教育DX推進センター／教授方法支援小委員会(事務局:学務部学務課)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3 TEL.03-5228-8119 FAX.03-5228-8123 E-mail. fd@admin.tus.ac.jp

